

家族

2025.3.31

この1年で、たくさんの素敵なご家族と出会うことができた。幼稚園児、小学生、中学生、そして高校生のご家族である。子どもたちを育て、見守り、その成長を楽しみにしているご家族である。

幼稚園では、毎朝、保護者が幼稚園まで子どもたちを連れてきてくれる。安心である。朝から子どもたちはうれしそうである。4月からスタートし、「おはようございます」が言えなかった子どもたちが、秋から冬になると、いつの間にか言えるようになっていく。園の生活でも、できなかったことが日に日にできるようになっていく。わからなかったことが、わかるようになっていく。その陰には、ご家族の支えがある。そう思っている。幼稚園の保育、教育は、ご家族の理解と協力がなければ、とても成り立たない。

中学校で部活動がんばった生徒がいる。3年生になると、クラブチームの中心選手として、最後の中体連大会に臨んだ。お母さんは、小学生のうちから、クラブチームの練習、遠征、大会とフル回転だった。練習中は、率先してコーチを補助し、子どもたちをサポートしていた。

その生徒は、高校でも競技を続けたいという。そうになると、行くべき高校は決まってくる。希望を叶えるためには、今度は勉強で努力するしかない。お母さんは、また違った形で支えるようになる。無事に合格するまで長かったことだろう。

晴れて4月からは、高校生としての部活動が始まる。入りたくて入った高校であり、チームである。人一倍がんばるはずである。それを支えるお母さんのご苦労、いや楽しみはこれからも続くことになる。

幼稚園児でも高校生でも、1年間での子どもの成長には、目を見張るものがある。それを傍らで見ることができるのは幸せなことである。365日の間には、様々なドラマがある。楽しいことばかりではない。辛いことや嫌なことも起きる。だが、それらを乗り越える先に成長がある。人の成長にはドラマが欠かせない。人生にはドラマが必要である。

家族は、社会の中の最小単位であり、最も大切な社会である。人は、家族の中で多くのことを学んでいく。家族と共に生きていく。家族によって、子どもたちの人生、運命は変わっていく。そう考えると、家族の使命は大きいと言わざるを得ない。家族がやるべきことは多い。子どもたちを、一人の人間として育て、成長させ、社会に送り出さなければならない。

縁あって出会うことができた、すべてのご家族に感謝しながら、本日の第207号をもって、4月よりスタートさせた「園長通信～こころ～」今年度分の終了としたい。お読みいただいた皆様、ありがとうございました。新年度分の4月から、またお世話になります。